



樋口隆一 指揮 明治学院バッハ・アカデミー

Ryuichi Higuchi, dirigent & Bach Akademie Meiji Gakuin Tokyo

ハイドン「ネルソン・ミサ曲」

Franz Josef Haydn: Mass in D Minor, "Nelson-Messe"

Melsson-messe

2025年3月29日(土)

18:00開演(17:30開場) Saturday, 29 March, 2025 at 18:00

会場:  紀尾井ホール

Kioi Hall

東京都千代田区紀尾井町6番5号



樋口隆一(指揮)

樋口隆一(指揮)

明治学院バッハ・アカデミー合唱団・合奏団(古楽器使用)

渡邊順生(フォルテピアノ:ナネット・シュトライヒャー ウィーン, 1818年)

富永美樹(ソプラノ) / 庄司祐美(メゾソプラノ)

高野二郎(テノール) / 土田悠平(バリトン)

予定プログラム

モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart

交響曲第38番 ニ長調「プラハ」K.504

Symphony No.38 "Prague" K.504

ピアノ協奏曲第20番 ニ短調 K.466

Concerto in D minor for Piano and Orchestra K.466

ハイドン

Franz Josef Haydn

「ネルソン・ミサ曲」ニ短調

Mass in D Minor, "Nelson-Messe"



明治学院バッハ・アカデミー合唱団・合奏団



渡邊順生
(フォルテピアノ)



富永美樹
(ソプラノ)



庄司祐美
(メゾソプラノ)



高野二郎
(テノール)



土田悠平
(バリトン)

発売日

2025年1月11日(土) 10:00~

入場料(各税込)

全指定席

S席 ¥6,000 A席 ¥4,000 学生 ¥1,000

※学生券(¥1,000)をご購入いただきましたお客様は当日学生証をご提示ください。

チケット取り扱い

チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード:288-484)

主催:明治学院バッハ・アカデミー <http://bachakademie.web.fc2.com/> 後援:音楽三田会

お問合せ:株式会社AMATI Tel.03-3560-3010 〒107-0052 東京都港区赤坂1-14-5-S103 <https://www.amati-tokyo.com>

次のことをあらかじめご承知の上、
チケットをお買い求め下さい。

①やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございます。公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。②いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意下さい。③演奏中は入場できません。④未就学児の同伴はご遠慮下さい。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚のチケットが必要です。⑤全指定席です。指定の座席にてご鑑賞下さい。⑥場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑦ネットオークション等によるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。⑧他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。

2024年6月、ライブツィヒ・バッハ音楽祭とウィーン・ドミニカーナ教会で大成功を収めた

樋口隆一指揮明治学院バッハ・アカデミー合唱団。

今回は、モーツァルトの名曲「ブラハ交響曲」と「ピアノ協奏曲第20番 ニ短調」を古楽器で演奏。
オペラを思わせるハイドンの「ネルソン・ミサ」は華麗にして心に沁みるウィーン古典派の神髄です。

樋口隆一〔指揮〕

1946年、東京生まれ。音楽学者・指揮者。慶應義塾大学文学部卒、同大学院博士課程中退。ドイツ学術交流会 (DAAD) 奨学生としてドイツ留学。バッハのカンタータの研究 (『新バッハ全集』1/34) でチュービンゲン大学哲学博士。A. スムスキーに指揮法を師事し、シュトゥットガルト聖母マリア教会で合唱指揮者を務めた。帰国後、音楽学者、指揮者、評論家として活動。ミハエル・ギーレン、若杉弘の助言を得て、1994年、指揮活動を再開。2000年、明治学院バッハ・アカデミーを設立。2010年までは明治学院チャペル、その後はサントリーホール、紀尾井ホールを中心に宗教音楽の傑作を次々に上演。『バッハ』(新潮文庫)、『バッハ・カンタータ研究』(音楽之友社)、アーノンクール著『古楽とは何か』(共訳、音楽之友社)、ノヴァーク著『ブルックナー研究』ほか著書書多数。バッハ《マタイ受難曲・後期稿》、ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》、(ユニバーサルミュージック)、フォーレ《レクイエム》(オクタヴィア・レコード)等のCDも話題を呼んでいる。現在、明治学院大学名誉教授。音楽三田会会長、一般財団法人樋口季一郎中将顕彰会会長。1988年、京都音楽賞、1989年、辻莊一賞受賞。2002年、オーストリア学術芸術功労十字章受章。2015年、ドイツから第2回テオドル・ベルヒェム賞を受賞した。

渡邊順生〔フォルテピアノ〕

ナネット・シュトライヒャー(ウィーン、1818年)

1950年鎌倉に生まれる。1973年、一橋大学社会学部卒業。アムステルダム音楽院にてチェンバロをグスタフ・レオンハルトに師事、ソリスト・ディプロマ及びブリ・デクセランスを取得。その後、ヨーロッパ各地にて演奏活動を行い、1980年に帰国。以来古楽器演奏の啓蒙と普及に努め、精力的な演奏活動を展開し、チェンバロ、フォルテピアノ、クラヴィコード奏者、指揮者として活躍。フランス・ブリュッヘン、アンナー・ビルスマ等、欧米の名手たちとも共演多数。楽譜の校訂や論文の執筆も手がける。また、多数のCDをソニー、創美企画、コジマ録音、セシルレコード等からリリース。2000年秋、著書『チェンバロ・フォルテピアノ』を上梓した。桐朋学園大学、東京音楽大学及び国立音楽大学講師。モーツァルト「2台のピアノのためのソナタ集」CD(コジマ録音)で2006年度音楽之友社レコード・アカデミー賞(器楽部門賞)受賞。樋口隆一指揮明治学院バッハ・アカデミー管弦楽団とのCDにナネット・シュトライヒャー製のフォルテピアノを使ったベートーヴェン「交響曲第4番、ピアノ協奏曲第4番」(明治学院サービス)がある。

富永美樹〔ソプラノ〕

雙葉高校からAFS留学制度で米国留学、現地の私立高校を卒業。慶應義塾大学法学部卒業。銀行勤務の後、ニューヨーク・ジュリアード音楽院イヴニングディヴィジョンで声楽を学ぶ。ジョイス・マクリン氏に師事。2010年に《パルジファル》花の乙女Iでオペラデビュー。その後、《魔笛》夜の女王、

《椿姫》ヴィオレッタ、《リゴレット》ジルダ、《フィガロの結婚》スザンナ、《コジ・ファン・トゥッテ》フィオルディリージ、《カルメン》ミカエラ、《ドン・ジョヴァンニ》ツェルリーナ、《後宮からの誘拐》ブロンデ、《劇場支配人》ジルバークラング、《こうもり》アデーレ、《電話》ルーシーほか、リリック・コロラトゥーラソプラノとして多数のオペラに出演。2014年、ムジカーザにて「華麗なるバロックのタペ」を主催。2024年9月、Hakuju Hallでのソロリサイタルは「音楽の友」で絶賛を博す。東京室内歌劇場会員。

庄司祐美〔メゾ・ソプラノ〕

4歳よりピアノに親しむ。女子学院中学・高等学校で聖歌隊に所属。慶應義塾大学文学部心理専攻卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科に入学、同大学院独唱科博士後期課程修了。大学院在学中に藝大定期演奏会メンデルスゾーン《エリア》(ゲルハルト・ボッセ指揮)ソリスト。シュトゥットガルト音楽大学でコンラート・リヒター氏のリートクラス修了。シュトゥットガルトのバッハ週間カンタータ解説演奏会、演出付《ヨハネ受難曲》、シャリノ《ガラスの下の声》ソリスト。マックス・レーガーの歌曲演奏はSWRで放送された。帰国後は二期会《ジュリアス・シーザー》、《ワルキューレ》、二期会week inサントリーホール、オーチャードホール開館20周年記念ワーグナー・ガラコンサートや《第9》、マラー《復活》、《大地の歌》に出演。2006年以来定期的にリサイタルを開催。その後も渡欧し、ペーター・シュライアー、ブリギッテ・ファスベンダー各氏のマスタークラスに参加。2010年ドイツ、ボンでのシューマン生誕200年記念リサイタルは現地新聞紙上に好評を得る。二期会会員。日本演奏連盟会員。

高野二郎〔テノール〕

品川音楽文化協会会長。洗足学園音楽大学、昭和音楽大学、桐朋学園芸術短期大学各講師。二期会会員。東京藝術大学卒業、同大学院修了。2009年、男声オペラ歌手グループ“The JADE”(ザ・ジェイド)メンバーとしてアルバム「手紙」でメジャーデビュー(EMIミュージック)。1stシングル「クジラのあくび」がNHKみんなの歌で放送される。オペラソリストとして2000年「魔笛」タミーノ王子役で新国立劇場デビュー。以降現在まで数々の新国立劇場、日生劇場等の主催公演に出演。テノールソリストとして新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団等主要オーケストラとコンサートで共演。NHKニューイヤーパーラコンサート、NHK歌謡コンサート、題名のない音楽会等にテレビ出演。クラシック音楽以外では東宝ミュージカル「レ・ミゼラブル」(オリジナル演出版、新演出版)に出演。劇団四季「美女と野獣」等の公演に携わる。井口昇監督作品「電人ザボーガー」、山田洋次監督作品「母と暮せば」等の劇場映画の主題歌、挿入歌を歌唱。また、特撮ヒーロー作品の主題歌を歌い「平成の子門真人」を標榜する等クロスオーバー歌手として幅広く活動中。ソロアルバム“エッセンス”、“マイ・ウェイ”、“Love Letter”をリリース。

土田悠平〔バリトン〕

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業時に同声会新人賞を受賞。卒業後、ウィーン・ブライナー音楽院へ3年間留学。ブクステフデ《われらがイエスの四肢》でソリストデビューし好評を博す。ドイツ歌曲、宗教曲を得意とする。小澤征爾、チョン・ミュンフン、シャルル・デュトワ氏ら指揮のもと、数々のオペラや演奏会に出演。アルメニア国主催の音楽祭に招致され、大臣より賞状や感謝状を受けるなど好評を博す。ソロリサイタル“Lieder Einladung”を7回開催。ウィーンでもソロリサイタルを開催。近年では歌曲「野ばら」の研究者として注目を浴び、演奏の他、講演、企画も行っている。ヨーロッパを中心に、未発見とされる20曲の「野ばら」の楽譜収集に成功し、ニュース番組の特集やNHK「ラジオ深夜便」、日本経済新聞、毎日新聞などに取り上げられた。2018年には(公財)朝日新聞文化財団からの助成により「音楽劇コンサート『野ばら』の約束」を公演し好評を博した。CD-BOX及び楽譜集「『野ばら』111曲集」を出版。野ばらプロジェクト・エグゼクティブプロデューサー。http://nobara-project.com/

明治学院バッハ・アカデミー合唱団

明治学院バッハ・アカデミーは、バッハ没後250年を記念して2000年に設立された。芸術監督は樋口隆一。白金の明治学院チャペルを本拠に、2010年まで年間6回の定期演奏会を行ってきた。《マタイ受難曲》(初期稿)のCDは国際的にも注目を集め、それが2006年、ライブツィヒ国際バッハ音楽祭出演へとつながった。合唱団は、明治学院関係者にとどまらず東京周辺在住のバッハ好きたちによって結成され、毎週月曜の夜、島崎藤村も学んだ明治学院記念館で、樋口隆一の指導で練習を重ねている。ポリフォニーの魅力を生かした清澄な合唱は高く評価されており、2011・12年、サントリーホール・フェスティバルにおける「ウィーン音楽散歩 Ⅱ」に出演。2013年11月、ベルリンのコンツェルトハウスでの日独合同合唱演奏会「日本の響き・ドイツの響き」、ブリュッセルの王室礼拝堂でのバッハ《マニフィカト》出演で国際的評価を得た。サントリーホールでは、2014年10月、バッハ《ミサ曲短調》、2016年3月、バッハ《マタイ受難曲》、6月、フォーレ《レクイエム》、2017年10月ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》ほか、紀尾井ホールでは、2018年6月、2019年8月の2回のバッハ・カンタータ演奏会、2022年3月バッハ《ヨハネ受難曲》第IV稿演奏会と自主公演を重ね、それらのライブCDも高い評価を得ている。(指揮・樋口隆一、発声指導・岡田愛、伴奏・栗島和子)

明治学院バッハ・アカデミー合奏団

2000年4月、樋口隆一(指揮)と神戸愉樹美、渡邊順生、渡邊慶子を中心に、わが国を代表する古楽器奏者を集めて結成された。練習から演奏へと一貫して行われる彼らの音楽造りは、研究と実践、身ぶりとの対話によるワークショップであり、和やかな雰囲気の中に自発性を尊重した音楽が産み出される。2011年、2012年、サントリーホール主催「ウィーン音楽散歩」(樋口隆一企画・指揮)にも出演し、高く評価された。